

資 料 編

資料 1	史跡の概要と課題一覧表	_____	資 - 2
資料 2	史跡馬越長火塚古墳群と出土品	_____	巻頭グラビア
資料 3	古墳現況図（再掲）	_____	資 - 7
資料 4	地区区分図（再掲）	_____	資 - 9
資料 5	樹木調査結果	_____	資 - 10
資料 6	整備計画図（再掲）	_____	資 - 11
資料 7	整備イメージ図	_____	巻頭グラビア

資料 1 史跡の概要と課題一覧表

馬越長火塚古墳

項目	馬越長火塚古墳の概要		
墳形規模	全長 70m（区画溝に挟まれた墳丘下段の東西の長さ）の前方後円墳。墳丘上段の全長 60m、同後円部径 31m、同後円部高（東側）5.5m、同前方部長 31.5m、同くびれ部の幅 15m、同くびれ部付近の高さ 3.5m		
築造時期	古墳時代後期（6世紀末葉）		
土地利用	後円部は樹林となっている。『八名郡誌』によると、明治初年まで草生地だった。その後前方部は、開墾され柿畑となったが、現在は草地である。古墳周囲は柿畑や水田跡で、水田跡にはガマが生えている。		
土地所有	古墳の範囲は民有地、後円部の一部にかかる市道部分は豊橋市		
土地利用規制	市街化調整区域、農業振興地域、農用地区域		
調査歴	昭和 43 年（1968）石室内発掘調査 昭和 55 年（1980）重要遺跡指定促進調査、測量調査 平成 10 年（1998）測量調査 平成 17 年～21 年（2005～2009）確認調査		
内容	調査結果	現状	課題
遺構 1 墳丘 2 埋葬施設	<p>1 墳丘は、地山削り出しを主体とする下段と、盛土からなる上段で構成されている。後円部中央にある円丘部を除き、ほぼ全面が葺石で覆われている。古墳時代後期後葉では、東海地方最大の規模である。</p> <p>後円部の上段は、中央が著しく高いドーム状の円丘部と、その周囲のごく低い下り傾斜からなる周縁部からなる。前方部は低く細長い形状である。西半が柿畑に改変されているが、その造成土に覆われる形で前方部の下半がよく残っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 後円部の北側墳裾は市道により削られている。 墳丘下段の北側・東側・南側一部は、水田や柿畑耕作により削られている。 一部に雨水等による墳丘盛土の流出がみられる。 前方部は、農地造成のため上部が削られ周囲に盛土されている。 くびれ部南側は後世に盛土されている。 墳丘上に抜木痕穴や掘削穴がある。 調査等で見つかった葺石の石材が、墳丘周辺に野積みされている。 後円部を中心に樹木が茂る。 	<ul style="list-style-type: none"> 墳丘の適切な保存 本来の墳丘範囲の可視化、顕在化と、その手法の検討 原位置を失った葺石の石材の活用 後円部の樹木の管理
	<p>2 横穴式石室は、全長 17.5m 以上で、前庭と側壁の立柱石によって分けられた羨道、玄室からなる。さらに、玄室もまた前室と後室とに分けられる複室構造をなしており、県内最大規模を有している。前庭長 5.75m、羨道+玄室（前室+後室）長さ 11.75m、石室最大幅 2.35m、最大高 2.95m。典型的な三河型横穴式石室の特徴をもつ。石室内から豊富な副葬品が出土した。石室の保存状態は比較的良好である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 石室が開口し、常時人の出入が可能であるが、石室の安全性が未確認である。 一部に石の割れなどの劣化が見られる。 一部に石の抜き取りによる石室の破損がみられる。 墳丘上の樹木の根が石室を傷めている可能性がある。 石室入口脇の句碑の土台に、羨道の天井石が転用されている。 前庭が埋没し、本来の規模や構造がわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 石室の適切な保存 石室内の安全な公開方法の検討 石室にかかる樹木の管理 取り外された天井石の扱い 石材の保存処理、補強 前庭の顕在化、可視化 見学者の安全確保 防犯施設の不備

馬越長火塚古墳（続き）

内 容	調査結果	現 状	課 題
遺構 3 周辺施設	<p>3 前方部西側の高まり（現況柿畑）は、古墳に関わる施設の痕跡かどうかが解明できなかった。</p> <p>後円部東側に浅い区画溝が確認され、中央に陸橋状の途切れが存在した可能性がある。</p> <p>墳丘南側の谷は、古墳の形状に合わせるように、前方後円形に加工されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘南側の水田跡が荒れている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘南側の水田景観の改善と谷地形の復元検討
出土遺物	<p>鉄地金銅装馬具、玉類、須恵器、武器、鏡など</p> <p>東海地方の古墳時代後期の首長墓を特徴づける出土品として、平成24年9月6日に国重要文化財に指定された。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者は豊橋市 ・国重要文化財を含む主要な遺物は豊橋市美術博物館、その他は豊橋市文化財センターに保管 ・金属製品の保存処理は完了 ・内規に基づき年間60日以内の特別公開をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時公開を視野に入れた活用のあり方の検討 ・地元における出土遺物の展示公開施設の検討
古墳が立地する地形 古墳に関連する歴史文化資源	<p>古墳の南と北側の開析谷に挟まれた舌状の扇状地上に位置する。南側谷底からの高さは、後円部が8m、前方部が5.5m</p> <p>石室入口脇の句碑に古墳や石室を読んだ句が記されている。昭和18年に土地所有者が設置した。</p> <p>古墳時代以外の遺物が出土しているが、古墳時代の終焉以降の土地利用の状況は不明である。灰釉陶器碗（10世紀）、山茶碗（13世紀）、土師器鍋（16世紀後葉）、近世の瓦が確認されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘南側の谷が埋没して水田となった。後世に水田造成のため墳丘下段が削られた。 ・句碑は、古墳の今日に至る履歴の一部と考えられるが、古墳の景観にそぐわない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・墳丘南側の水田景観の改善と谷地形の復元検討 ・句碑の適切な取扱いの検討
管理施設 (標識、境界杭、囲柵、標柱、説明板)	<p>市が総合説明板（1箇所）、個別の遺構解説板（6箇所）を整備済みである。</p> <p>境界杭（仮設）</p> <p>幅員2m程度の市道が墳丘に通じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総合説明板が墳丘下段上にある。 ・標識等や囲柵がない。 ・特に急勾配の後円部への上り下りによって、墳丘の崩れがみられる。墳丘上に見学路はない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合説明板の適切な位置への移設 ・史跡標識、史跡境界標の設置 ・適切な見学者動線の検討
取扱いを検討すべきもの 建築物、工作物（看板、道路・水路）、地下埋設物、樹木	<p>後円部に北側市道（市道石巻本町5号線）がかかる。</p> <p>北側市道内に埋設された豊川用水支線（暗渠）があり、100年間の利用権が設定されている。</p> <p>北側市道内に上水道管（本管）が埋設されている。</p> <p>北側の市道には側溝などの排水施設がない。</p> <p>墳丘上の樹木は、緑陰と地区のランドマークになっている。『八名郡誌』によると、墳丘上は明治初年まで草生地だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北側市道が後円部の一部墳裾を傷めている。 ・古墳周辺の排水対策が必要である。 ・豊川用水の管渠は、埋設深さ市道下で約120cm、畑で約80cm。直径5cmの塩化ビニル管で、約50年前に手掘掘削されている。 ・樹木が根を張り、墳丘を傷めている可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北側市道の適切な取扱いの検討 ・道路や水路改修に対する対応の検討 ・豊川用水と上水道管の管渠更新に対する対応の検討 ・墳丘に影響を与える樹木の伐採

大塚南古墳

項目	大塚南古墳の概要		
墳形規模	墳丘は東西 18m、南北 17.5m、高さ 1.2mの規模を持つ。直径 19mの円墳と推定		
築造時期	古墳時代後期（～終末期）：7世紀初頭（馬越長火塚古墳に後続する時期の古墳）		
土地利用	墳丘上は柿畑だったが、現在は草地となっている。古墳周囲は柿畑である。		
土地所有	民有地		
土地利用規制	市街化調整区域、農業振興地域、農用地区域		
調査歴	平成 20 年（2008）確認調査		
内容	調査結果	現状	課題
遺構 1 墳丘 2 埋葬施設 3 周辺施設	1 墳丘は西～北～東側にかけて2段に、南側のみ1段になって残存している。頂部に平坦面を持つ。2段になった平坦なテラス面が本来の墳丘の形状であるかどうかは不明である。 墳丘周縁に葺石が遺存する。本来の墳丘は3段構造であった可能性が高い。	・墳裾や墳丘上部が営農のため削られ、現地表の観察からは、正確な墳丘形状がよく分からない。	・残存する墳丘の適切な保存 ・正確な墳丘形状の解明 ・築造時の墳丘の可視化、顕在化とその手法の検討
	2 横穴式石室が南方向に開口し、墓道が接続する。石室の全長は推定8～9m。転落した天井石が確認されている。	・側壁の幅など、石室の具体的な構造が未解明である。 ・石室が土に埋まっている。	・石室構造の解明 ・整備に向けた確認調査の実施 ・横穴式石室の適切な保存と展示
	3 一部、墳裾の周りに溝状の遺構が存在する。	・溝状遺構の範囲、性格が不明である。	・溝状遺構の解明
出土遺物	金銅装馬具、須恵器	・所有者は豊橋市 ・豊橋市文化財センターに保管 ・金属製品の保存処理は完了 ・企画展等で公開をしている。	・常時公開を視野に入れた活用のあり方の検討
古墳が立地する地形 古墳に関連する歴史文化資源	馬越長火塚古墳が所在する段丘から見て、開析谷を挟んだ南西側に位置する。本古墳も南と北が東西方向に走る開析谷によって挟まれた舌状の扇状地上にある。墳丘上が削られている。	—	—
管理施設 (標識、境界杭、囲柵、標柱、説明板)	境界杭（仮設） 古墳が柿畑内（民有地）にあるため、管理施設、保存施設は設置されていない。	・市道から古墳に至る進入路がない。 ・説明板がなく、古墳であることがわからない。	・史跡標識、史跡境界標、説明板の設置 ・適切な見学者動線の検討
取扱いを検討すべきもの 建築物、工作物（看板、道路・水路）、地下埋設物、樹木	古墳北側の農業用倉庫 柿畑の排水溝（土水路） 墳丘周囲の柿畑	・古墳脇に老朽化した農業用倉庫が建っている。 ・墳丘周辺に排水路が掘削される可能性がある。 ・墳丘周囲の柿の木により市道から古墳が見えない。古墳全体の見通しもきかない。	・農業用倉庫の適切な取扱いの検討 ・排水路掘削への対応 ・古墳の眺望の確保

口明塚南古墳

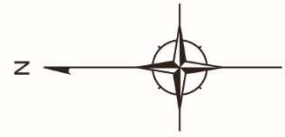
内 容		調査結果と現状		
墳形規模	現状の墳丘は、平面形が東西 23m、南北 20mの楕円あるいは変形多角形状に残る。高さは裾から 1.0～1.3mほど。 直径 23mの円墳と推定			
築造時期	古墳時代終末期（飛鳥時代）：7世紀前葉（大塚南古墳に後続する時期の古墳）			
土地利用	墳丘上も古墳周囲も柿畑である。			
土地所有	民有地			
土地利用規制	市街化調整区域、農業振興地域、農用地区域			
調査歴	平成 21 年（2009）確認調査			
内 容	調査結果	現 状	課 題	
遺構 1 墳丘 2 埋葬施設 3 周辺施設	1 墳丘上部は畑造成のため削平されている。 周縁に列石・葺石が残る。	・墳丘上部や墳裾が営農のため削られ、正確な墳丘形状が分からない。	・残存する墳丘の適切な保存 ・正確な墳丘形状の解明 ・築造当時の墳丘の可視化、顕在化とその手法の検討	
	2 横穴式石室が南方向に開口し、ハの字形に前庭が広がる。石室の全長は推定 9～10m、側壁幅は 2.1m。石室の遺存状況は良好であると推測される。	・石室の具体的な構造が未解明である。 ・石室が土に埋まっている。	・石室構造の解明 ・整備に向けた確認調査の実施 ・横穴式石室の適切な保存と展示	
	3 明確な区画施設は確認できない。	—	—	
出土遺物	金銅製馬具、金銅製空玉、金銅製鉸具、須恵器、土師器	・所有者は豊橋市 ・豊橋市文化財センターに保管 ・金属製品の保存処理は完了 ・企画展等で公開をしている。	・常時公開を視野に入れた活用のあり方の検討	
古墳が立地する地形 古墳に関連する歴史文化資源	馬越長火塚古墳が所在する段丘とは、開析谷を挟んだ北西側に位置する。北側の丘陵の裾からなだらかに続く段丘の上にある。南と東側が段丘崖の傾斜となる落ち込みに近い平坦面上に位置する。 古墳時代以外の遺物として、石室の前庭から中世前期の山茶碗や鍋などが出土している。12～13 世紀にかけて古墳の再利用があったか？	—	—	
管理施設 (標識、境界杭、囲柵、標柱、説明板)	境界杭（仮設） 古墳が柿畑内（民有地）にあるため、管理施設、保存施設は設置されていない。	・市道から古墳に至る進入路がない。 ・説明板がなく、古墳であることがわからない。	・標識、標柱、説明板等の設置 ・適切な見学者動線の検討	
取扱いを検討すべきもの 建築物、工作物（看板、道路・水路）、地下埋設物、樹木	墳丘上も墳丘周囲も柿畑となっている。 墳丘周辺に雑木が繁茂する。	・墳丘上で柿が栽培され、墳丘上にトラクター等が出入する。 ・柿の木や樹木により、墳丘の形状がわかりにくい。古墳全体の見通しもきかない。	・速やかな公有化の検討 ・墳丘上の営農についての取扱いの検討 ・管理放棄地の樹木の管理 ・古墳の眺望の確保	

史跡の周辺環境

内容	構成要素	現状	課題
古墳周辺の弥生時代から古墳時代の遺構・遺物	指定地周辺の古墳の分布 <ul style="list-style-type: none"> ・茶臼山1号墳（前期）、茶臼山古墳群 ・勝山1号墳（前期）、勝山古墳群 ・権現山1号墳（前期、県指定）、権現山2号墳（前期、県指定） ・七ツ塚古墳群（後期～終末期） ・宮西古墳（後期～終末期、市指定） ・馬越北山古墳群（後期～終末期） 	<ul style="list-style-type: none"> ・権現山1号墳・2号墳、宮西古墳、馬越北山古墳群には、説明板や誘導看板が設置されている。遺物は豊橋市が所有・管理している。 ・その他古墳には説明板等が未整備である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺古墳の価値付けと、馬越長火塚古墳群との関係の解明 ・周辺古墳の県・市指定、あるいはランクアップの検討 ・周辺古墳と馬越長火塚古墳群との一体的活用・整備 ・遺物の一体的な保存活用
歴史文化資源（伝承・民俗）	<ul style="list-style-type: none"> ・九十九塚 ・素盞鳴神社 ・宝蓮寺・馬越城址 ・春興院・いぼとり地蔵・和田城址 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の歴史文化資源が豊富に存在するが、十分有効活用されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化資源の掘り起し
※古代交通路としての二見道（姫街道・脇往還）と沿道の文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡嵩山蛇穴、嵩山宿（豊橋市） ・史跡三河国分寺、三河国分尼寺、御油・赤坂宿（豊川市） ・三ヶ日宿、気賀関所、井伊谷（浜松市北区） ・見附宿、遠江国分寺、御厨古墳群（磐田市） 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内や他市の文化財との連携した活用が図られていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報交換を伴う連携と共催イベントなど活用の積極的な推進
公園、駐車場、看板（サイン）、道路、水路	<ul style="list-style-type: none"> ・県道からの誘導看板（2箇所） ・馬越集会所 ・馬越集会所西の駐車場 ・馬越遊園 ・県道沿いに民間の果樹直売施設（果実村） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地区内にガイドンス施設、トイレ、駐車場、休憩所など、見学者用施設がない。（馬越集会所西に見学者用駐車場があるが、十分に周知されていない。） ・公共交通が不便である。 ・県道からの進入道路が狭く、墳丘近くまで車両が入れない。 ・電気が通っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・古墳群の管理と活用のための拠点施設の検討 ・県道からの進入道路の拡幅整備によるアクセスの容易化 ・見学者受け入れに向けた便益施設の検討 ・（史跡整備後に）営農中の農地（柿畑）周辺に不特定多数の見学者が立ち入ることについての対処
開析谷、扇状地、農地、樹林地、境内地、集落	<ul style="list-style-type: none"> ・なだらかな柿園の田園景観が広がる。 ・盆地 ・採石場や貯水タンクの特徴的な景観 	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地等に草木が繁茂し、古墳の眺望を阻害している。 ・採石場や山頂の貯水タンクが、田園景観にアクセントを与えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・史跡と農業景観（田園景観）の調和 ・古墳の眺望点の確保 ・ランドマークとしての人工物の活用

資料3 古墳現況図（再掲）





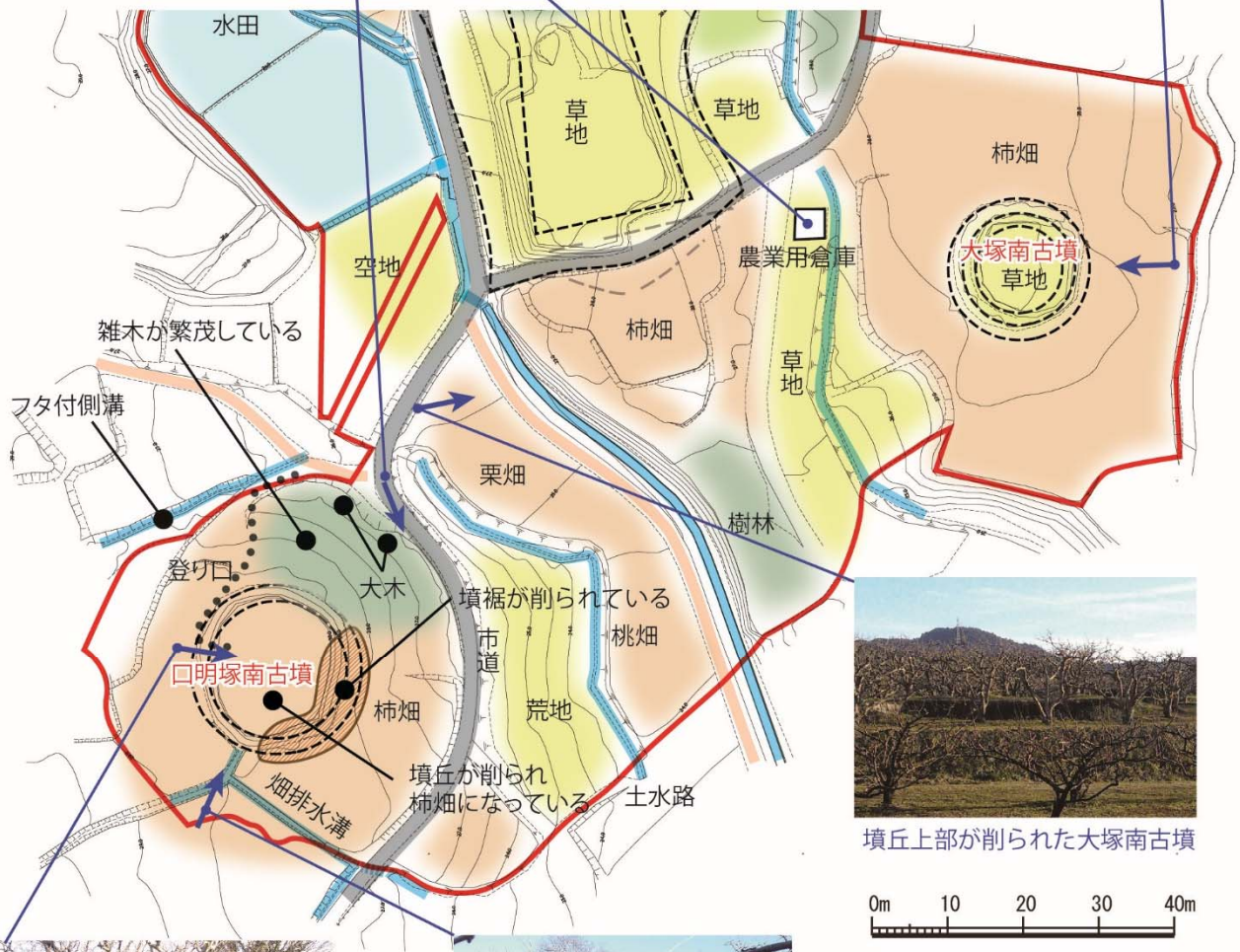
口明塚南古墳の南側市道



農業用倉庫



大塚南古墳墳丘



墳丘上部が削られた大塚南古墳



口明塚南古墳の登り口



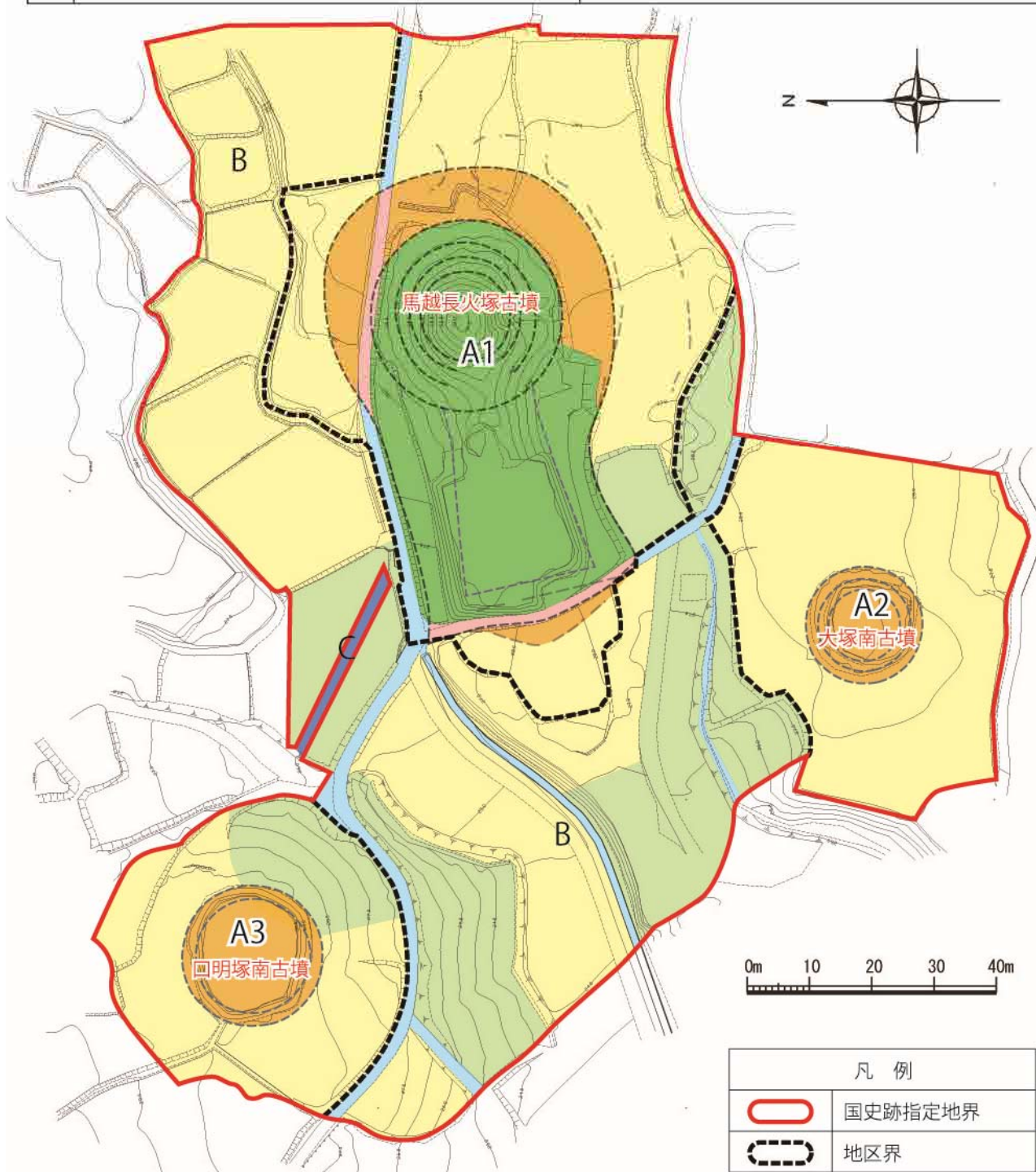
柿畑内の排水路 (土水路)

凡 例	
	国史跡指定地界
	墳丘推定復元線
	写真撮影方向

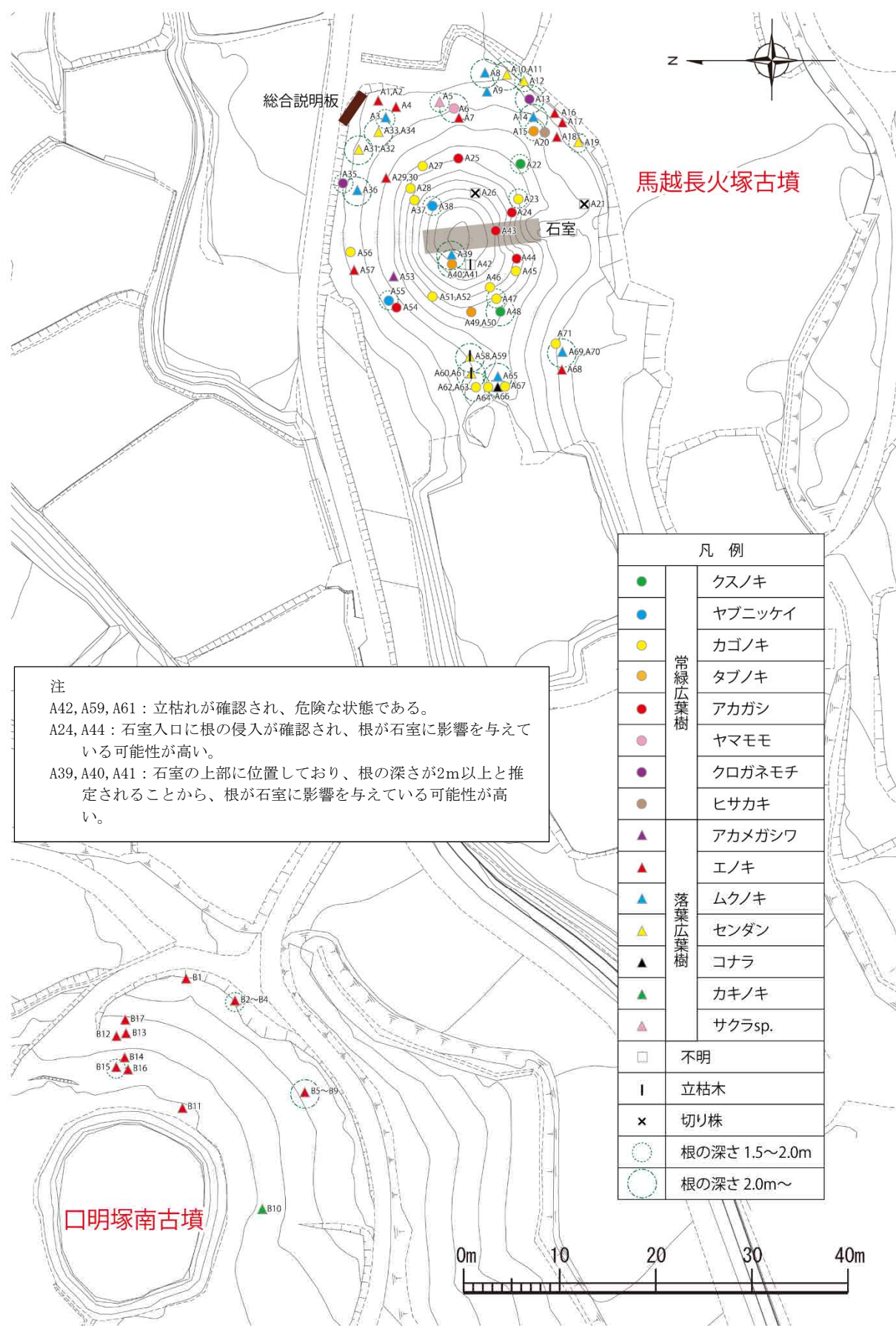
大塚南古墳・口明塚南古墳現況図

資料4 地区区分図（再掲）

地区	説明 (地区大別)	記号	説明 (地区細別)	記号	説明 (細別性格)	イ 道路敷・水路敷	ロ 農地	ハ 雑種地・山林
A	史跡の主たる 構成要素	1	馬越長火塚古墳	a	墳丘			
		2	大塚南古墳					
		3	口明塚南古墳	b	周囲			
B	史跡の歴史的な立地景観を構成する要素					豊川用水(地上権設定範囲)		
C	今後保護を要する範囲(未指定地区)							
D	馬越地区の前期及び後終末期の古墳群とその一帯							

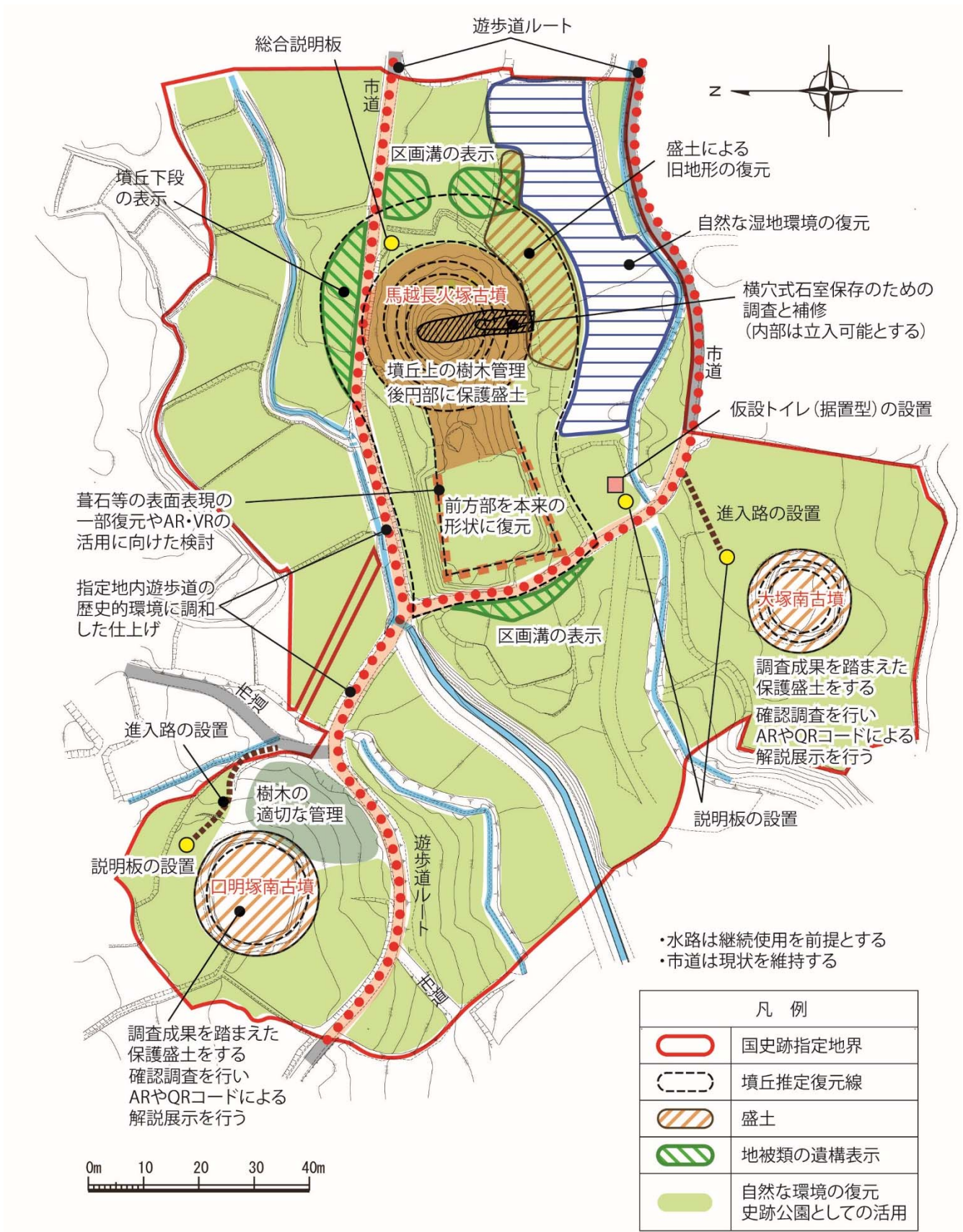


資料5 樹木調査結果

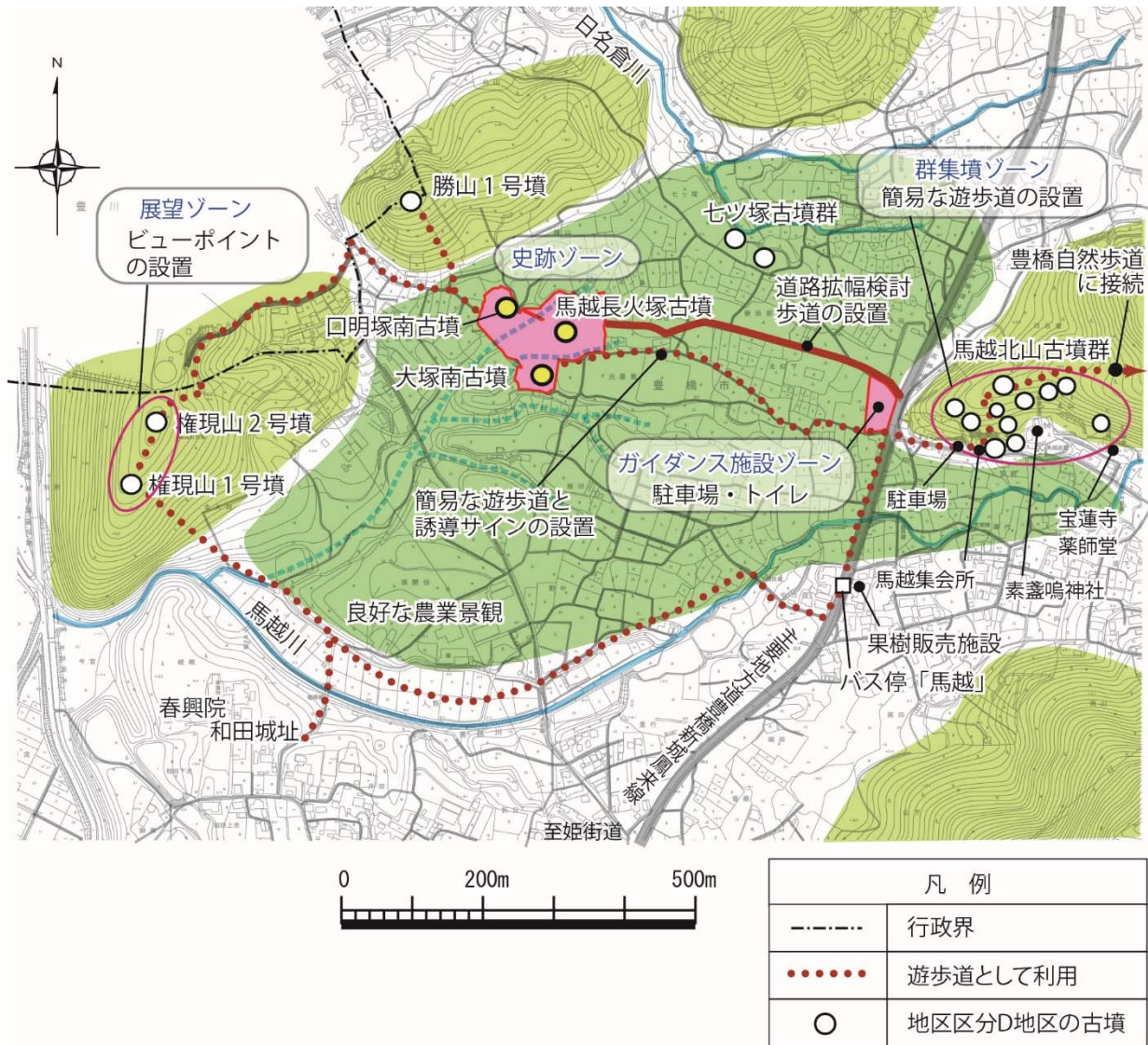


樹木現況図

資料6 整備計画図（再掲）



史跡指定地内の整備計画図



馬越地区の整備計画図

史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画書

2018年3月30日

発行 豊橋市教育委員会

編集 株式会社フジヤマ